2016/1/20

自立活動の改善・充実の方向性（検討素案）

平成２８年１月２０日
教育課程部会
特別支援教育部会
（第５回）　資料５

育成すべき資質・能力

教科等の学習

個別の知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等（知っていること・できることをどう使うか）	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等にかかわるもの（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）	育成すべき資質・能力のために重視すべき学習過程等の例

自立活動が教科等の学習を支える役割

健康の保持　心理的な安定　人間関係の形成　環境の把握　身体の動き　コミュニケーション

目的と目標

特別支援学校の目的
幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける

自立活動の目標
個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害のよる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を養う。

特別支援学校等を取り巻く現状

- 高等部生徒数の増加
- 知的障害のある児童生徒数の増加
- 障害の状態の多様化（重度･重複を含む）

小・中・高等学校

通級による指導、特別支援学級
- 児童生徒数の増加
  →「自立活動」を行う場の拡大
- 高等学校（モデル事業）

成果と課題

［成果］
- 新区分「人間関係の形成」が設けられ、重度・重複障害や自閉症を含む多様な障害に応じた指導が、学校教育のあらゆる機会を通じて展開
- 解説に「ＩＣＦによる障害の捉え方」が示されたり、幼児児童生徒の自立と社会参加に向けたアシスティブ・テクノロジーの開発により、自己の力を可能な限り発揮するための代行手段や補助的手段を活用した指導が充実
- 幼児児童生徒が発達の進んでいる側面を積極的に伸ばそうとする態度が育成　など

［課題］　一部に
- 社会に出てからも、自己理解し、得意不得意を伝えることが苦手だったり、進路先で人間関係を築く力などが十分に育っていないとの課題が指摘
- 現在の実態だけにとらわれてしまい、将来を考えて指導を組み立てる視点の弱さ
- 実態把握から導かれた指導目標と到達状況の乖離
- 幼児児童生徒自身が、前の学びからどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを主体的に捉えるようにするための学習評価の在り方
- 各教科等における自立活動と関連を図った指導が十分でない　など

改善・充実の方向性

主体的に改善・克服しようとする取組の充実

発達段階を踏まえた自立活動の内容の改善・充実

（例）
- 育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った内容の整理
- 自己の理解や感情を高めるような内容の整理
- 主体的に学ぶ意欲の一層の伸長

など

指導目標、具体的な指導内容の設定等の示し方の改善

実態把握、指導目標の設定、項目の選定、具体的な指導内容の設定までのプロセスを結ぶ要点をわかりやすく記述

（例）
- 収集した情報の整理
- 困難さの背景に着目した指導課題の関係性等の整理
- 優先する指導目標の明確化　など

評価と指導の一体化の一層推進

自立活動における多様な評価方法をわかりやすく記述

（例）
- パフォーマンス評価
- 自己評価

など

カリキュラム・マネジメントの確立